

平成 28 年 9 月 21 日開催
京都大学留学支援ネットワーク・ワークショップ
【午後の部】グループディスカッション総括

グループ A：心の健康と異文化適応

- 渡航前の学生の状況
指導教員との板挟み、理解を得られないことの葛藤など、表在化しにくい問題も存在する
- スクリーニングの重要性
自記式健康調査票では限界があるため、指導教員や大学本部などが連携し、学生を支援していくことが必要である。個人情報の問題もあるため、介入をどのようにするか。潜在的な心理的問題については、学生支援とのサービスとも連携していく必要がある。
- 現地で問題が起きたとき
現地の支援、日本からの支援、個々に適した支援を統合して、支援体制を強化していく必要がある。
- トラブルに伴うメンタルの問題への対処の必要性
- 障がい者支援
現在は、取り組みは不十分。今後、積極的に支援していく必要がある。

グループ B：留学の学習計画と効果の最大化

- 学習目標とカリキュラム目標をどう達成するか
 - ・・・という学生に行かせるとどうい効果があるのかについての事例検討及び学内での環境作りの必要性
- 留学の動機付け
 - 入学時からやる気にさせる後押しが必要である。
 - 就職活動（外資系企業、商社など）にも必要、親に対する説得性もある。
 - 上級生による留学プログラムへの参加は、1年生への影響、教育的効果が大きい。
- 留学の単位化について
 - 学生の留学での単位取得が少ない傾向がある。単位互換制度を一層充実させる必要がある。
 - 学位プログラムでは緻密な設計が必要である。
- 本学における留学疑似体験をさせる環境を整える
 - 留学の雰囲気作り、非英語圏への留学も有効である。
 - 留学モデル・費用などの情報を示し、4年間のストーリーを設計して学生を支援する。
 - 多様な例を提示して留学に対する壁を取り払う。
 - 「きずな」や「吉田国際交流会館」を活用して、留学生との日常的な交流を活性化する。
 - 相談体制の充実（窓口対応、留学コーディネーターなど人員配置が必要）
 - 英語での授業のオンライン化および世界中の講義の配信を活用し、事前研修等に組み込む。
 - 広報・宣伝の重要性（学生が好む動画等の利用）

グループC：キャリアデザインにおける留学の位置づけ

➤ キャリアデザイン

現在の学生はキャリアプランを持っているかどうか。

- キャリアプランは持っていないが、留学に行きたいという学生
→モチベーションはあるが、留学に対する意識は低い。留学から得られるものは何かを心に留め、留学がどういうものなのか、留学に対するモデル像を一緒に構築していく必要あり。
- 就職に有利かどうかを基準に留学を求めるような傾向もある中、当初の動機が重要。それに基づいて何を選択するかが問われる人生の節目の一つでもあることを学生が理解するように導くのが送り出す側の役割でもある。
- トランジションモデルの第4ステップ（ドリフトや偶然を楽しむデザインとドリフトのバランス）・・・留学しないと得られないこと。勉強そのものは日本でも出来るが、チャレンジングな環境下でプラスアルファを見つけていく（偶然の出会いも楽しむ）。
- 長い目で見ての仕事生活がイメージできるように、留学という節目を自らがデザインできるか。
- 結果だけを求めるのではなく、明確な動機を持ち、留学が今後の自身の人生に及ぼす影響を理解した上で、自らが選択・決定し、努力しながら、その過程を楽しむことも大切。
- 留学経験のあるものは先を行く者として、そうした経験知をこれから留学しようとしている者にアドバイスできると良い。そのような仕組みは、大学にとっての財産でもある。

まとめ

- 留学に伴う、今まで、積極的に取り上げられてこなかった、解決困難な問題や葛藤も含めて議論が深められた。
- 留学に行きやすい仕掛け作りや、留学の効果の最大化には、入学時から様々な工夫が必要である。
- 留学を、いかに学生のキャリアデザインに組み込んでいくか、学生と共にキャリアプランを構築していくことが重要である。
- 大学における留学支援の拡充に向けて、保護者への働きかけ、部局での取り組み、指導教員や研究室の理解と支援、全学組織の支援体制の強化など、様々なレベルでの総合的な環境整備が必要である。